



[今月の聖書]

「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言うておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意に行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。わたしがどこへ行くのか、その道はあなたがたにわかっている」。トマスはイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしょう」。イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」(ヨハネ 14:1-6)

呼ばれる者の声がある、「荒野に主の道を備え、さばくに、われわれの神のために、大路をまっすぐにせよ。もろもろの谷は高くせられ、もろもろの山と丘とは低くせられ、高低のある地は平らになり、険しい所は平地となる。こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る。これは主の口が語られたのである」。(イザヤ 40:3-5)

「狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからは行って行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。」(マタイ 7:13-14)

「しかし、無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである。」(ルカ 10:42)

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです。」(ヨハネ 17:3)

お元気でお過ごしでしょうか。今月は希望の言葉5「道・真理・命」と題して聖書の中心人物イエスキリストについてお話いたします。聖書と言う書物に取り組み始めて、その膨大さに圧倒されて読むことをやめてしまう方が多くあります。旧約聖書は39巻、新約聖書は27巻。それぞれが異なる時代にかかれ、また40人以上の著者によってまとめられました。旧約聖書はヘブル語で、新約聖書はギリシャ語でかかれました。どう見ても1つの意思がこの聖書を一貫して書いているとは思えない難しさがあります。しかし深く読み進めていきますと、隠れた神の意思が選ばれた人々の筆を通して私たちに愛を語っているということに気づきます。旧約聖書は1つの民族を指し示し、新約聖書はその民族から現れたイエスキリストを指しています。言葉を変えて言えば聖書の66巻は、このイエスキリストを指し示す人々の指であると考えられます。それではイエスキリストご自身は、ご自分をどのように表しているのでしょうか?今日のテーマは、イエス・キリストがご自身を「道」、「真理」、「命」と表現してくださいました。①それは永遠の命に至る唯一の道です。②それは混沌とした時代における唯一の真理です。何が大切かということがわからなくなってしまった時代に「なくてならぬもの」を示しています。③それは命です。地上において神の目的を持って、生きがいを持って、あらゆる逆境を乗り越えて、神をほめたたえて生きる命です。またこの命は地上の命だけではなく、永遠の命です。天国において過ごすための命です。イエス・キリストはこのようにご自身を表されました。聖書の御言葉があなたの人生に唯一の道を示してくださいるようにお祈りいたします。この方こそ聖書の中心人物なのです。祝福をお祈りいたします。

(お知らせ)

* 地区集会のご案内

6月4日(火) 13:00 CFI 千葉集会

(東天紅千葉駅前センシティタワー22F TEL043-238-5555)

6月7日(金) 13:00 関西集会(大阪聖パウロ教会)

6月11日(火) 13:00 CFI 横浜集会(福音喫茶メリー TEL 045-231-6773)

6月19日(水) 11:00 水曜礼拝、14:00 ジョイコーラス(自由が丘チャペル)

* 6月11日(火) 19:00 東日本大震災復興支援超教派一致祈祷会(淀橋教会)

* 7月2日(火) 広島集会(会場未定。後日連絡いたします。)

荒野の泉

レター・B・カウマン
山崎亭治訳

『さてわたしたちには……大祭司なる神の子イエスがいますのであるから、わたしたちの告白する信仰をかたく守ろうではないか。……だから、わたしたちは、あわれみを受け、また恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく、恵の御座に近づこうではないか。』

ヘブ四ノ十四、十六

祈りにおいてわたしたちの大いなる助け主は主イエス・キリスト、すなわち父に対する弁護者、わたしたちの大祭司である。今日に至るまでのわたしたちに対する彼の大いなる奉仕はとりなしと祈りであった。彼はわたしたちの不完全な願いを取り上げ、その欠点をきよめ、その誤りを正し、ご自身の故に、また彼の力あるあがないの功德と正義に訴えて、祈りの応答を要求して下さる。

兄弟よ、あなたは祈りの力なきを感じているか。上を見上げなさい。あなたのほむべき弁護者はすでにあなたの答えを要求して下さった。だから、もしも勝利があなたに会おうとしてその途中にある瞬間に、この戦いを止めるようなことがあったならば、あなたはこの弁護者を悲しませ、また失望させることになる。彼はすでに至聖所に入り、そのみ手をあげてあなたの名を神に示しておいでになる。そして祝福をあなたにもたらす使いがすでに出發して途中にある。そして聖霊は「事成れり」という、天からくる答えの響きをあなたの心にささやこうとして、あなたの信頼を待っているのである。

—A・B・シムプソン

聖霊は神に受け入れられる祈りに密接の関係があるが、祈りにおける彼のお働きは多く閑却されている。彼は光をもって思念にその必要を示し、心を柔らげて必要を感じさせ、適当な供給に対する願望をもたせ、わたしたちを助ける神の力と知恵と恵みを明らかに示し、すべての動揺を除き、神の真理に対する確信をかき立てて下さるのである。それゆえ、祈りは実に驚くべきことである。すべて神に受け入れられる祈りには、三位一体の神が関与していられるのである。

—J・アングル・シエームス

STREAMS
IN THE
DESERT